

H. D. ソローの著作群における文明批判の諸相：超 絶主義思想との関連において

林, 南乃加

<https://hdl.handle.net/2324/2198511>

出版情報 : Kyushu University, 2018, 博士 (比較社会文化), 課程博士
バージョン :
権利関係 :

氏名	林 南乃加			
論文名	H. D. ソローの著作群における文明批判の諸相： 超絶主義思想との関連において			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	高橋 勤
	副査	福岡女子大学	特任教授	小谷 耕二
	副査	九州大学	名誉教授	太田 一昭
	副査	九州大学	准教授	西野 常夫
	副査	高知大学	名誉教授	上岡 克己

論文審査の結果の要旨

提出された博士論文は19世紀合衆国の思想家ヘンリー・ソローの作品群における文明批評の諸相について論じたものであり、特にアメリカ超絶主義思想との関連性を指摘したものである。代表作『ウォールデン』をはじめほぼ網羅的にソローの作品を扱い、そこに一貫して描かれた文明批評の精神について論じたものである。その学問的な意義はソローの社会批評の根幹に「より高次の法」(Higher Laws)という、キリスト教を基盤とした宗教概念が存在することを論証した点である。従来シンプルライフの実践家、あるいはパストラル文学の枠組みにおいて論じられたソローの作品を「より高次の法」という原理原則にもとづく、いわばニューイングランドの宗教風土の革命精神に遡って論じた点である。申請者は二次資料を広範囲に参照しつつ論文を構成しており、その研究の蓄積は最終審査の質疑応答においても確認された。よって本論文を博士(比較社会文化)の学位に値すると認めた次第である。